

# サポートセンターのあゆみ

サポセンが生まれてから、これまでの歩みをダイジェストで振り返ります。懐かしく感じる出来事、ありますか？

- 1999 11月 横須賀市市民活動サポートセンター オープン
- 2000 1月 月刊誌「情報広場」発行開始  
季刊誌「サポートセンター通信」発行開始
- 2月 のたろん 誕生  
メールマガジン「のたろんメール」配信開始
- 2001 1月 のたろん文具 貸出開始  
2月 第1回「のたろんフェア」開催  
7月 第1回「夏の市民活動体験」開催  
10月 久里浜サポートセンター オープン  
NPO 法人 YMCA コミュニティサポートによる運営が開始される
- 2002 2月 第2回「のたろんフェア」ドブ板バザールと同時開催  
4月 市民協働推進補助金制度 開始  
11月 追浜サポートセンター オープン
- 2004 7月 機材の館外貸出し 始まる
- 2005 6月 FM ブルー湘南「遊びに来ませんかスタジオへ」コーナー スタート  
7月 季刊誌「サポートセンター通信」が「情報誌のたろん」に改名
- 2006 1月 一時預かりロッカー 設置  
横須賀市市制 100 周年事業「のたろんプロジェクト」立ち上げ  
4月 館内の汐入側の扉を閉鎖  
7月 のたろんサンバ誕生  
11月 高校生大学生による市民活動プロジェクト「スカコン」開催  
「何かやり隊ヤングマン」活動スタート
- 2007 2月 冊子「よこすか市民協働の手引き」発行  
のたろんフェア 2007  
4月 「4Sクラブ」誕生
- 2008 4月 「さぼせんサポーターズ (通称さぼサポ)」誕生  
横須賀市 市民公益活動団体支援基金「よこすか元気ファンド」開設
- 2009 11月 サポートセンター「10周年記念フォーラム」開催  
夏の市民活動・ボランティア体験 県立保健福祉大学での PR 開始
- 2010 8月 大型プリンタ サービス 開始
- 2011 4月 「今、私たちにできること・東日本大震災」開催
- 2012 3月 「ひくてあまたのお父さんプロジェクト」スタート  
5月 第1回こたろんフェア 開催  
7月 「よこすかのNPO 法人」冊子発行  
夏の市民活動・ボランティア体験 関東学院大学での PR 開始  
横須賀市 市民公益活動ポイント制度実証実験 実施  
11月 朗読劇「ハッピーバースデー」開催  
子ども支援「ハッピーのたろんプロジェクト」スタート
- 2014 1月 サポートセンター 新リーフレット完成  
サポセン登録団体の分野が 17 分野から 20 分野  
4月 のたろんプロボノ大作戦 スタート

のちの「情報誌のたろん」



ひとりじゃないよ  
not alone

これまで、サポセンは横須賀市の直営でした。

この号から編集ボランティアが参加



ヒゲのてんてんがないこともある。。



みんなのことをかんがえたり



人生についてかんがえたり



★D



ときどき「わかんないよー！」って叫ぶこともある

のたろんもひとりじゃない!?

「のたろんフェア 2007」「協働推進」「高校生大学生の市民活動」「知ってもらおう市民活動」4つのプロジェクトが市民参加で展開されました。

防犯対策のためでした。このとき館内レイアウトが大きく変更になりました。

今でもスタッフ踊れます♪

スカコンとは「ヨコスカ市民活動合コン」横須賀市市制 100 周年記念事業のひとつとして、高校生、大学生の実行委員を中心に企画運営されました。

「スカコン」のメンバーにより発足。のちの「ぼびーぐみ」。

市制 100 周年も兼ねたのたろんフェア 2007 の実行委員たちの奮闘と熱気は今でも伝説となっている。

のたろんフェア 2007 の実行委員により結成。

「のたろんフェア 2012」よりインターネット生中継 Ustream 配信スタート。



「ボランティア元年」といわれた 1995 年 1 月 17 日の阪神淡路大震災からまもなく 20 年が経ちます。この当時も多くのボランティアな団体や人が交流し、1998 年の特定非営利活動促進法など全国的な動きもあってセンターは誕生しました。センター開設にあたっては、市民やボランティア団体の方々の声が反映され、県内でもまた全国的にもスタイリッシュなオープンスペースであること、当初から公設民営の施設として設置されたことも注目を浴びました。草創期のセンターでは、開かれたスペースの中で、互いの活動を紹介し合ったり、連携し合ったり、一緒に企画をする中で様々な協働も生まれました。

あれから 15 年。当時一緒に活動した団体やグループが表彰されたり、記事になったり、様々に活躍されている様子や、当時の学生ボランティアが、東日本大震災復興支援などでのコーディネーターや市民活動の第一線で活躍している姿に出会います。15 年間で多くのボランティア活動や市民活動が引き継がれ、生まれ、次の世代が育っています。当時の皆さんと知恵を集めながら作ってきた活動が、このように目に見える形で成果につながっていることを大変嬉しく思います。これもセンターという場所を通じて、センターを育ててきたボランティア、市民団体それぞれのパートナーシップの成果だと思えます。

これからも横須賀の市民活動、ボランティア活動をみんなで作っていきましょう。

初代館長 高村 文子

